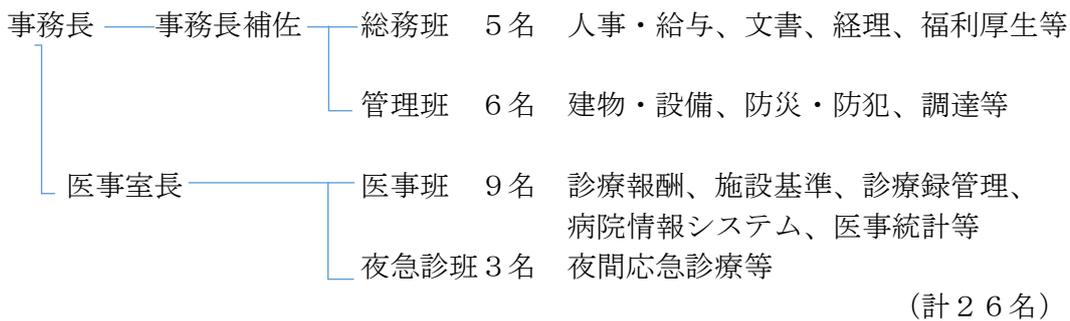


## 1 部門目標

- (1) 新病院開院に向けた診療機能の充実・強化
- (2) 施設環境の維持・改善
- (3) 収支の改善（経費節減の徹底）

## 2 業務体制・スタッフ



## 3 業務実績

- (1) 救急医療の充実（救急科の体制強化／救急搬送困難事例の受入協力／病院搬送車の導入）  
千葉県消防局救急隊出動地域における傷病者の搬送困難事例の解消のための「受入確保基準対象医療機関」として、平成30年8月から協力している。  
令和元年度から開設した救急科は、新たに救急救命士4名を任用する等、体制を充実強化した結果、前年度実績を約200件上回る2,458件の救急搬送を受け入れた。  
また、消防局から譲り受けた救急車を病院搬送車として整備し、運用を開始した。これにより約300件の転院搬送を行い、本市の救急業務の負担軽減に貢献するとともに、新型コロナウイルス感染を含む搬送先が決まらない救急搬送困難事例も積極的に受け入れ、病院全体では約8,100件の救急搬送を受け入れた。
- (2) 新型コロナウイルス感染症への対応  
新型コロナウイルスの5類感染症移行後においても、第9波が到来した夏場は、過去最高人数に近い入院受け入れを行い、令和5年度は196人の新型コロナウイルス感染症患者の入院を受け入れ、公立病院としての役割を果たすことができた。
- (3) 脳神経外科の診療体制強化  
高齢社会の進展に伴い増加している高齢患者の多様な疾患に対応するため、脳神経外科について令和4年度の準備期間を経て、令和5年度に診療体制を強化し、24時間365日脳卒中患者の治療が可能な一次脳卒中センターの認定を受け、本格稼働した結果、入院患者数は10倍以上に、救急受け入れ件数も約8倍となった。
- (4) 臨床研修医及び学生の臨床実習の受け入れについて  
地域における医療水準の向上及び医師の資質の向上を図るため、前年度に引き続き、基幹型臨床研修病院として卒後臨床研修医12名と、千葉大学医学部附属病院を基幹型とする協力型臨床研修病院として卒後臨床研修医2名を受け入れるとともに、青葉病院など近隣医療機関からの協力型短期臨床研修として計26名の卒後臨床研修医を受け入れた。また、専攻医（後期臨床研修医）については25名を受け入れた。  
看護学校等から学生の臨床実習の受け入れについては、感染症の動向を見ながら、実施した。

#### (5) 施設環境の維持・改修

開院後39年が経過し、空調設備、給排水設備、電気設備の老朽化が著しいことから、近年は、計画的に改修工事を実施してきたが、令和3年度の病棟系統外空調設備改修工事を最後に予防保全を目的とした計画的な大規模改修工事は完了とし、事後保全に切り替えることとした。

令和5年度は腐蝕及び漏えいの激しい蒸気配管更新のほか、不具合発生箇所に対する小規模修繕を随時実施した。

### 4 1年間の総括

令和5年度は、入院延患者数72,824人（前年度+9,631人）、外来延患者数108,962人（前年度▲4,806人）となり、入院延患者数は大幅に増加した。特に小児科・脳神経外科・救急科の増加が顕著であった。

小児科は、RSウイルス等の感染症が流行した際に、千葉医療圏のみならず、他医療圏の患者も引き受け、救急車受入件数は過去最高となった。

脳神経外科は、令和5年度より常勤医師3名体制、占有病床数を2床から10床に増床するなど診療体制の強化を図り、患者増に繋がった。また、24時間365日脳卒中患者の治療が可能な一次脳卒中センターに認定された。

救急科は、救急救命士を4名採用し、病院搬送車による転院搬送を本格的に開始した。新生児科は、令和4年6月から休止していた新生児治療回復室（GCU）を6月から再開し、新生児のケアに努めた。

また、災害拠点病院として、令和6年1月に発生した能登半島地震において、石川県へDMATを派遣した。

収益に関しては、事業収益が10,494,466千円で前年度比▲2.8%（298,244千円）の減収となった。このうち、医業収益は、入院患者数が前年度を上回ったことなどから、7,787,156千円で、前年度比7.7%（558,304千円）の大幅な増収となったが、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴う補助金の廃止等による減収がこれを上回った。事業費用は10,903,407千円で、給与費の増や材料費の高騰に伴う経費の増などにより、前年度比9.6%（954,548千円）の増額となった。これらの結果、事業収益と事業費用の差し引きで、408,941千円の純損益が生じた。

### 5 今後の目標

#### (1) 医師の働き方改革の推進

令和6年度から開始される医師の働き方改革の適用に向け、時間外勤務時間が1ヶ月で100時間を超えが見込まれる医師への面接指導や心身の状態や疲労の蓄積度合いの確認が適切に行えるように事務局として最大限の支援に努めていく。

#### (2) 新病院の開院準備

当院の強みである周産期医療等については、引き続き充実・強化に取り組んでいく。

また、超高齢社会を迎え、増加する高齢患者に対応していくためには、高齢患者特有の複合的な疾患に柔軟に対応できる体制整備が必要であることから、脳神経外科および整形外科の医師を増員し診療体制の充実・強化を図りつつ、がん診療体制の充実に向けて呼吸器系や泌尿器系診療科の医師確保に取り組んでいくとともに、救急搬送の受け入れ体制の強化も図っていく。